

授業科目	保育内容 ことば					実務家教員担当科目	○				
単位	1.	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	上村 眞生										
授業概要	<p>保育所保育としての実務経験を踏まえ、保育所における日常的な子どもの言葉環境を活用した保育の展開について講義を行う。子どもの心身の発達や一人一人に応じた適切なかわりを考察しながら、ことばの持つ意味や、子どもの言葉の育ちについて学ぶ。</p> <p>保育内容ことばに関する児童文化財とその活用方法を学びながら、学生自身のことばに対する基本的姿勢を見つめ、保育者として子どもにとって豊かな環境となるように、ことばの表現力を身につける意識を持つことを目標とし、授業を展開する。</p> <p>授業は遠隔で実施する。</p>										
授業形態	演習			授業方法	グループワーク						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どものことばの育ちの過程について理解する ・子どものことばの育ちを支える保育について、様々な事例をもとに考察することができる ・子どものことばの育ちを支える児童文化財について理解する ・保育内容「ことば」のねらいと内容について理解し、実践できる 										
理想的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どものことばの育ちの過程について理解し説明できる ・子どものことばの育ちを支える保育について、様々な事例をもとに考察することができる ・子どものことばの育ちを支える児童文化財について理解し、活用できる ・保育内容「ことば」のねらいと内容について理解し、実践できる 										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）					備考				
試験											
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）		50%									
レポート外の提出物		50%									
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	WE21619J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
各回に提示する課題										1	
授業計画											
第1回	オリエンテーション 授業の進行方法・評価方法について説明する										
第2回	「領域 表現」										

	5領域の中での「表現」の位置づけについて解説する
第3回	乳幼児の言葉1 乳幼児の言葉に関する発達について解説する
第4回	乳幼児の言葉2 乳幼児の言葉の発達を促すための、保育者としての言葉の重要性について解説する
第5回	保育計画の立案1 言葉に関する保育計画立案のために必要な基礎的知識について解説する
第6回	保育計画の立案2 言葉に関する部分保育指導案の作成方法を解説する
第7回	保育内容言葉における児童文化財1 保育内容の言葉において関連するさまざまな児童文化財について解説する
第8回	保育内容言葉における児童文化財2 保育内容の言葉において関連する児童文化財について解説する（絵本、紙芝居、素話等）
第9回	保育内容言葉における児童文化財3 保育内容の言葉において関連する児童文化財について解説する（ことばあそび、なぞなぞなど）
第10回	テーマ：保育内容言葉における児童文化財の製作1 保育内容の言葉に関する児童文化財の製作について解説し、制作を行う
第11回	テーマ：保育内容言葉における児童文化財の製作2 引き続き保育内容の言葉に関する児童文化財の製作について解説し、制作活動を行う
第12回	模擬保育1 言葉に関する模擬保育を行う【Aグループ】
第13回	模擬保育2 言葉に関する模擬保育を行う【Bグループ】
第14回	模擬保育3 言葉に関する模擬保育を行う【Cグループ】
第15回	まとめ 半期間の振り返り
テキスト	保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領解説
参考図書・教材	適宜紹介する

<p>／データ ベース・ 雑誌等の 紹介</p>	
<p>課題に対 するフィ ードバッ クの方法</p>	<p>各課題への評価コメントを提示する</p>
<p>学生への メッセー ジ・コメ ント</p>	<p>子どもを取り巻く言葉環境に興味関心を持ち、情報収集すること。 自らのことばについて振り返り、子どもにとっての豊かなことば環境となるよう、自らのことばを日々意識すること。 聞く力の育成を目指すため、必要な情報を聞き、記録できるようにすること。 児童文化財制作は制作時間等個人差があるため、自らが必要とする制作時間（授業外時間）を確保すること。 常に「考える」ことを重視し授業を展開するので、自身の考えを持つこと、その考えを他者に客観的に説明することを習慣化しておくこと</p>